

## 地球温暖化時代への「適応」促進方策に関する調査研究

(平成 17 年度環境省請負事業)

### < 概要 >

地球温暖化に関しては、I P C C の予測では今後 100 年間に最低で 1.4 ~ 5.8 度の気温上昇が予測されている。さらにこれまで考えられてきた以上のスピードと規模で地球温暖化が進行している。温暖化に伴う異常気象が世界各地で多発するなど、温暖化は既に現実のものとなりつつある。こうした状況に対応するためのわが国における各界のさまざまな取り組みは、特に 2005 年 2 月京都議定書が発効したのを契機に、一層の促進が期待される。温暖化を防止し安定的な大気の状態に戻すには温室効果ガスの 50 ~ 70% を削減する必要があるとされる。しかしたとえ議定書の当初の目標が達成されたとしても、それだけでは温暖化の進行は止めることはできず、今後数世紀は、温暖化する社会で、私たちはこれに適応しながら生きていかざるを得ない状況にある。

本調査では、温暖化する社会について、2030 年前後の社会面での変化を予測するとともに、変化に対応するために必要な体制整備について、衣、食、住などの基本的生活面、農林水産業、商工業、交通、観光などの産業面、医療、防災などの生活サポート面、食料やエネルギー等も含む国の安全保障のあり方などの国際関係面、を検討する。また、適応策の進んだイギリスの取り組みについて紹介する。さらに我が国における適応策への取り組みの方向性等について提案する。

### ( 報告書の目次 )

- 1 . 適応策の現状認識と意義
- 2 . 2030 年 ( 2025 ~ 2035 年 ) の社会変化の予測
  - 2 - 1 . 2030 年頃の基本的な社会状況
  - 2 - 2 . 温暖化に伴う影響予測
    - (1) 気候変化の概要
    - (2) 衣食住など基本的な生活面での影響予測
    - (3) 農林水産業、商工業、交通など影響を受けやすい産業の影響予測
    - (4) 医療・防災など生活サポート面での影響予測
    - (5) 食糧・エネルギーなど安全保障、国際関係
- 3 . 適応策についての予備的検討
  - 3 - 1 . 既存の適応策の概要
- 4 . イギリス ( UKCIP ) による広範な適応策への取り組み状況
  - 4 - 1 . UKCIP とは ( 組織、活動、資金など )
  - 4 - 2 . 「適応」についてのイギリス政策当局の認識
  - 4 - 3 . 適応政策の枠組

- 4 - 4 . UKCIP 8 年間の活動要約
- 4 - 5 . 8 年の活動から浮かび上がった主要な課題とチャンス
- 4 - 6 . ビジネス（企業）を取り込む

**【参 考】**

- 5 . 我が国における適応策への取り組み提案とそれを可能にする体制整備
  - 5 - 1 . 適応策を準備し、実施するうえで必要な政策課題
  - 5 - 2 . 情報の内容・提供手法（政府広報や民間も含む）など情報のあり方を含み、価値観の転換やライフスタイルの変更につながる普及啓発面での検討
- 6 . 上記提案に対する意見
- 7 . 今後の課題